

# ボクんちワクチン キミンちもワクチン



Illustration : Wada Makoto



ワクチンの目的は病気の予防。だから、げんきな子にしか打てません。愛犬をとりまく怖いウイルスや細菌は、子犬だけではなく、成犬だってねらっています。  
大きな犬も小さな犬も、ワクチンは一生のおつきあい。

## 健康へのスタートはワクチン接種から。

### 健康へのスタートはワクチン接種から

まず「予防」、そして「健康をつくる」へ。  
愛犬の、からだ・こころ・環境をトータルに整えるヘルスケア。  
よい飼い主であるあなたの協力が重要です。

### 愛犬のための ワクチン憲章

いま、ペットとの暮らしが、かつてないほど多くの人々の関心をよんでいます。それは、人の動物に対する考え方の、付き合い方の変化と対応しています。もはやペット（愛玩動物）というより、人生のコンパニオン（伴侶）であり、ファミリー（家族の一員）であるといった関係にあるからといえるでしょう。

すでに人間社会で多くの役割を担っている愛すべき動物たち。かれらの健康を守り、少なくとも予防できる病気で、死にいたることのないようにすることが、私たちの願いです。

動物用医薬品 (要指示)	動物用医薬品 (要指示)	動物用医薬品 (要指示)
<b>デュラミュン®5</b>	<b>デュラミュン®6</b>	<b>デュラミュン®8</b>
犬ジステンパー・犬伝染性肝炎 犬アデノウイルス(2型)感染症 犬パラインフルエンザ 犬ハルボウイルス感染症	犬ジステンパー・犬伝染性肝炎 犬アデノウイルス(2型)感染症 犬パラインフルエンザ 犬ハルボウイルス感染症 犬コロナウイルス感染症	犬ジステンパー・犬伝染性肝炎 犬アデノウイルス(2型)感染症 犬パラインフルエンザ 犬ハルボウイルス感染症 犬コロナウイルス感染症 犬レプトスピラ病



#### 初めてワクチン接種をする方へ

- 初めてのワクチンでは、確実な免疫をつくるために複数回の注射が必要です。注射後免疫ができるまで約3週間、病気の動物に近づけないようにしてください。また、年1回の追加接種が必要です。
- 注射後は、はげしい運動やシャンプーはひかえてください。
- ときに接種反応がでることがあります。注射部分の痛みや腫れ、元気が食欲がなくなる、顔や眼が腫れるアレルギー反応などがみられたら、すぐに当院へご連絡下さい。

ワクチン接種のご相談は当院へ





ワクチンで予防できる犬の病気にはつぎのがあります。  
ワクチンは、いつ接種するかタイミングが重要です。とくに子犬の場合は、親ゆずりの免疫(移行抗体)が残っているので、これが切れる時期をみはからってワクチン注射をすることが大切です。

## 犬ジステンパー

発熱、下痢、神経症状などが起こり、全身がおかされ、治ってもいろいろな後遺症に悩まされます。  
死亡率も高く、こわい病気です。



## 犬アデノウイルス2型感染症

アデノウイルスによる感染症で、肺炎や扁桃炎など呼吸器病を起こします。

## 犬伝染性肝炎

こちらアデノウイルスによる感染症で、肝炎を主とし、嘔吐や下痢、食欲不振などが起こり、目が白く濁ることもあります。子犬では突然死することもあるこわい病気です。

## 犬パラインフルエンザ

パラインフルエンザウイルスによる呼吸器病で、咳や鼻水、扁桃炎を起こします。アデノウイルスや細菌と一っしょに「ケンネルコフ」と呼ばれる犬のカゼ症候群をひき起こします。

## 犬パルボウイルス感染症

血液のまじったひどい下痢や嘔吐を起こす腸炎型がよく知られていますが、子犬に突然死をもたらす心筋型もあります。伝染性が強く死亡率も非常に高いこわい病気です。

## 犬コロナウイルス感染症

腸炎をひき起こす感染症です。下痢や嘔吐が起こります。パルボウイルスと混合感染すると症状はいっそう重くなります。コロナとパルボをいっしょに予防することがたいへん重要です。

## 犬レプトスピラ病 黄疸出血型 カニコーラ型

人と動物共通の、細菌によって腎臓や肝臓がおかされるこわい伝染病です。いろいろなタイプがありますが、代表的なのは、歯ぐきの出血や黄疸がみられる黄疸出血型と、高熱、嘔吐、下痢を起こすカニコーラ型の2種です。アウトドアで活動する犬ほど感染しやすいので、予防が大切です。



獣医師の先生とよく相談して、

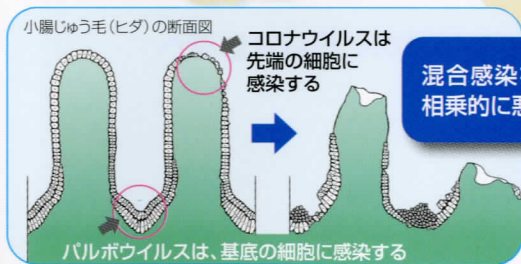
注射の時期を決めましょう。



ペットのげんきは  
家族のげんき

犬を飼いはじめたら  
すぐご相談ください。

### ウイルスによる腸管のダメージ



### 【狂犬病予防法について】

飼主には、狂犬病予防法で狂犬病ワクチン接種が義務づけられています。生後91日以上の犬は飼い始めてから30日以内に1回、その後は毎年1回注射を受けなければなりません。また、交付された注射済票を必ず犬につけておかなければなりません。

\*本ワクチンには狂犬病は含まれていません。